

C S Rレポート 2024



こうち生協がめざしているもの

基本理念

健康と子どもたちの未来のために

- 人間らしい豊かなくらしの創造、よりよい環境と平和をめざします
- 地域住民のくらしと健康を守り、住みよい地域社会づくりをめざします
- 協同の輪を広げ、県民の多数が参加する組織をめざします
- 地場生産者と手を取り合い、安心・安全なコープ商品の開発をすすめます
- 地域のさまざまな団体、商工業者のみなさんとともに「協力・協同」を強め、明るい町づくりの取り組みをすすめます
- 継続発展できる経営基盤の確立と人材育成をめざします

1985年11月18日、こうち生協は2,013人の組合員によって立ち上がりました。
すこやかな未来とよりよいくらしのためにお互いに支え合い、理想を実現しようと集まった
組合員は高知県全域で10万人を超え、その輪はますます広がっています。

こうち生協のSDGsの取り組み

こうち生協は協同組合の理念のもと、地域社会のよりよい環境と平和のために取り組んできました。2022年度には高知県が推進する「こうちSDGs推進企業登録制度」にも登録され、地域でのパートナーシップを強化するとともに、活動を内外に広めていくことに取り組みしました。



こうち生協では、SDGsの17の目標のなかでも、次の3つの課題に優先して取り組みます。



■2030年までに組合員世帯加入数11万人を実現

こうち生協は宅配、店舗、共済、サービスの4つの事業を通じて、組合員さんと地域の暮らしを支えています。2030年までに組合員世帯加入数11万人を実現し、さらに地域・暮らしに貢献できる組織へと発展することを目指します。



利用案内を中心にSNSでの広報を展開し、子育て世代の方に向けてCO・OP商品「きらきらステップ」シリーズなどを紹介し、まずは生協を知って頂く活動に取り組みました。2023年度はキッチンカーを導入し、他団体が主催する各種イベントに参加することで、生協を知って頂くきっかけづくりとなりました。

data □2023年度新規加入数/3,710人

ごあいさつ

2023 年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5 類」に移行し、組合員さんや地の暮らしも大きく変化しました。その変化に対応した事業・活動が求められる一年となりました。また、昨年 7 月からの「地球沸騰化」とも呼ばれた猛暑などの異常気象が世界中で続き、戦争や異常気象による原料・燃料の高騰に伴い、物価高が続く一年でもありました。このような厳しい状況の中、組合員さんからは「こういう時だからこそ、自分たちのできることをしていこう」との声が上がり、環境に配慮した商品や資源保護につながる商品の利用が増え、組合員さんが集まり交流する場に多くの参加が見られました。こうしたコロナ後の暮らしの中で、SDGs 持続可能な社会実現に向けた行動が多く生まれました。

私たちが暮らす高知県では、2022 年・2023 年と全国最少の出生数となるなど少子化が進み、人口減少・高齢化により人口の自然減・社会減が加速しています。こうした状況の中、こうち生協は生活インフラを支える役割を担い、地域の暮らしと命を支える存在となっています。過疎高齢化、人口減が続く高知県で、「ここで暮らし続けたい」という想いを支え、持続可能な地域社会を地域の皆さんと共に創造していく仲間として、こうち生協への期待が高まっています。今回の「こうち生協 CSR レポート」は、こうち生協の事業や活動、組合員さんの社会貢献活動への参加を、SDGs の目標との関係で編集をさせていただきました。ぜひこのレポートを一読いただいて、今後のこうち生協の事業・活動に対してのご意見をいただければと思います。



代表理事 理事長 佐竹 一夫

12 つくる責任
つかう責任



■ エシカル消費の普及

環境、地域、社会、人々に配慮した商品を「エシカル消費」と位置づけます。こうち生協では、こうち生協独自カタログを通じて地場産品の普及に貢献します。またイベントや広報を通じて組織内外にエシカル消費を普及します。年 1 回イベント開催。



組合員さんをはじめ、県内消費者にエシカル消費を普及することを目的に、2023 年 6 月に「エコチャレンジ 2023」を開催したほか、11 月には店舗内に設置したエシカル消費に関するクイズにチャレンジしながら学習して頂く「エシカルクイズラリー」を開催。子どもから大人までエシカルについて学ぶ機会となりました。

data

□2023 年度エコチャレンジ応募数/207 件

15 陸の豊かさも
守ろう



■ カタログの紙使用量を削減

商品カタログに使用する紙使用量を、2030 年までに 2021 年度比で 10%削減します。

紙使用量削減のためにデジタル化の推進に取り組んでいます。コープアプリを通じて WEB 上で商品注文ができる他、商品明細、欠品情報など、生協を利用する上で必要な情報が閲覧できるように、紙からデジタルへ情報ツールの移行が進んでいます。

data

□コープアプリの登録者数/6,481 人(2024 年 3 月末時点)

□商品カタログの紙使用量/2021 年度比 101.0%



事業紹介

関連する
SDGs の
目標



生協とは「生活協同組合」の事で、私たち消費者が暮らしの中で生まれ共通の願いを実現するために手を取り合い、自ら運営していく組織です。安心・安全な食と暮らしを求め、組合員一人ひとりが「出資」「利用」「運営」に参加することで支えられています。

共同購入事業

6 か所の支所より高知県下全土に商品を配送しています。ご自宅の玄関先にお届けする個人宅配、ご近所のグループや職場にお届けする共同購入、お店や各拠点での商品受け取りなど、組合員さんのニーズに応じた形態でお届けをしています。



●真心も一緒にお届け

まごころくろしお便は、組合員さんが商品カタログで注文した商品を、全国に発送する仕組みです。注文の際に先様に「ひとことメッセージ」を添える事ができ、県内外に離れて暮らしている方へ送り主の想いも一緒にお届けしています。



data

□宅配事業全体の供給高／96 億 4,764 万円（1 万円未満は切捨て）

店舗事業

日々の暮らしに役立つ商品を提供し、地域に喜ばれる買い場づくりを進めるとともに、地域や組合員活動の場を大切にした、ぬくもりのあるお店づくりをめざしています。



●一人ひとりの声が活かされる店

こうち生協の店舗では、店内に「よかったよ よくするカード」として、来店者に声を投稿していただき、スタッフの回答を入れて掲示する取り組みを実施しています。

店内に掲示している
「よかったよ よくするカード」▶



●お買い物バスの運行

来店が困難になった方を店舗まで送迎するために、お買い物バスを運行しています。お買い物の手段としてだけでなく、車内で相席する利用者さん同士の交流の場にもなっています。



data □店舗事業の供給高／20 億 57 万円（1 万円未満は切捨て）

■共済事業

CO・OP 共済は相互の助け合いによって、組合員さんの暮らしの個人的リスク、社会的リスクに備える手段の一つです。手軽な掛け金で充実した保障を実現できるよう、組合員さんの声をお聞きしながら制度の改定を行っています。

●県内の卒園児にコーすけのランドセルカバーをプレゼント

2010 年から始まった「ご入園・ご卒園プレゼント」は、毎年各園からご好評をいただき、2023 年度は 144 園 2,500 人に贈呈することができました。入学後の登下校の際に、地域の見守りの目印や事故の防止などに役立てられています。



data

□加入件数／72,313 件 □給付件数／ 10,893 件 □給付金額／719,532 円
□共済保険給付者ありがたい声 1,738 件

■サービス事業

快適な暮らしづくりのお手伝いとなるよう、住宅、各種チケット、葬祭など生活に必要な様々なサービスの提携を広げることで、よりよい暮らしへの貢献をめざしています。

●見て、触れて実感してもらうサービスへ

補聴器などカタログでは伝えきれない商品の特徴を、実際に体感して頂けるよう、コープかもべ敷地内に「ひつじの店」をオープンしました。



●組合員さんのお困りごとに応える

2023 年度は便利屋と提携を開始し、電球の交換や家具の組み立てといった、組合員さんの日常での些細なお困りごとに対応できるようになりました。

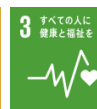


data

□サービス事業全体の供給高／1 億 2,746 万円（1 万円未満は切捨て）

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

関連する
SDGsの
目標



こうち生協は、諸団体との連携を大切にしながら、生協の事業や活動のインフラを活用して誰一人残さず安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。



地域社会の課題解決を目指して

地域におけるくらしの困りごとへの支援活動に取り組んでいます。

■配食事業「夕食宅配」を実施

こうち生協ではカロリーと塩分を調整した日替わりの夕食をお届けしています。日々の定期的なお届けを通じ、高齢者の見守りにもつながっています。2023年度はおかず4品、8品コースがリニューアル。味付けが一新され好評を得たことから、利用拡大に繋がりました。



おかず8品コース「らんまん」▶

■「もったいない」を「ありがとう」に

2023年度も高知県生活協同組合連合会とともに、フードドライブ活動に取り組みました。共同購入の配送でも支援物資の提供を呼びかけ、組合員さんから支援いただいた商品は、こうち食支援ネットを通じて、支援を必要としている団体などに寄付させて頂きました。

data

□集まった支援物資数量／448点



行政・地域諸団体との連携

■地域を見守る取り組み

宅配事業の基盤を活用した「地域の見守り活動」は、配達の際に担当者が異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に連絡を行うものです。



2007年10月19日 高知県、こうち生活協同組合、高知県民生委員会・児童委員協議会連合会の三者の間で「地域見守り協定」を締結。

2008年10月14日 高知市民生委員協議会連合会と、高知市における地域の見守り活動に関する協定を締結。

■自治体との連携を強化

地域の防災やインフラの維持などを目的に、2024年2月に安田町と包括連携協定を締結しました。これをきっかけに、地場製品の販売や、地域イベントへの参加が始まりました。





災害支援

災害（地震や風水害）に対して、被災地域への物資の補給や募金活動など、市民生活の立て直しに必要な支援を迅速に行うべく活動をしています。

■災害時に早期支援を

こうち生協は大規模災害等の発生時に自治体や他県の生協と相互に協力して住民生活の早期安定を図るため、食料・飲料水・生活必需品等の供給や事業の早期再開支援を行う協定を結んでいます。

data □協定自治体／12 行政 □協定生協／5 生協（2024 年 3 月末時点）

■全国の生協と協力して支援活動

2024 年の元日に発災した、「能登半島地震」では、全国の生協・事業連合と連携して、コープいしかわの配送支援や、ボランティアセンターの運営支援に、こうち生協の職員を派遣しました。また「能登半島地震災害支援募金」にも取り組んでいます。

data □能登半島地震災害支援募金／16,529,839 円（2024 年 3 月末時点）



子育て支援

子育てしやすい地域社会をめざし子育て世代を応援しています。

■「子育てひろば」を毎週開催

コープよしだの組合員室で赤ちゃんや小さな子ども連れで気軽に参加できるひろばを週に 1 回開催しています。親子で遊び、保護者同士でゆったりくつろいで情報交換をする場になっています。

data □開催回数／37 回
□参加人数／親子でのべ 172 人
（2024 年 3 月末時点）

■出前授業

夏休み期間中に高知市内の放課後児童クラブへ訪問し、「平和」「金銭教育」「食育」をテーマに出前授業を開催しています。



data □2023 年度開催実績／5 校 6 か所



くらしを見直す活動

組合員さんが学習できる場を創り、それらに関する情報提供を継続的に行っています。

■今知りたいことを伝える活動

LPA（ライフプランアドバイザー）の会では、大人から子どもを対象としてさまざまなセミナーや学習会を開催しています。2023 年度は「キャッシュレス決済セミナー」など、新たなテーマにチャレンジしました。



data □組合員 LPA9 人 □学習会開催 13 回 □参加人数 のべ 304 人（2024 年 3 月末時点）

健康づくりの取り組みを広げ 助け合い活動を進めます

関連する
SDGsの
目標



あらゆる年齢の人々が地域でいきいきと住み続けられるための健康づくりを食や運動、助け合い活動などの組合員活動を通じて進めています。

福祉・助け合い

こうち生協は組合員さん同士が助け合いの心を大切にし、その輪が更に広がることをめざした活動を行っています。

■ 暮らしの助け合いの会コープたんぽぽ

「困った時はお互いさま」の気持ちを大切にする組合員さん同士の援助活動です。誰もが住み慣れた地域で安心してらせるよう、家事援助や病院等の付き添い・話し相手・産後の援助など幅広い活動を行っています。



data

□利用会員数／71人 □活動会員数／34人 □賛助会員数 94人（2024年3月末時点）
□総活動件数／1,898件 □活動時間／3686.4時間

■ 高知家地域共生社会を推進

高知県は地域の弱まりや複合課題への対応として、みんながつながり、支え合う地域づくりに向けて、高知県内の企業・団体と繋がり高知型地域共生社会の取り組みを行っています。こうち生協もその取り組みを推進することを宣言しました。



食育の取り組み

「たべる*たいせつキッズクラブ」は親子料理教室などのイベントを通じて、子どもたちに食べることの大切さなどを、知る・学ぶ・広げる活動をしています。

data

□2023年度イベント開催数／4回 □参加人数／のべ82人

■ りんご狩り&ジュース絞り体験

9月に佐川町で開催した「りんご狩り&ジュース絞り体験」では、高知県では珍しいりんごを、木から収穫してその場で皮ごと丸かじり！もぎたてだからこそ味わえる新鮮な美味しさを堪能しました。



■ 入河内大根収穫&調理体験

約4kgと巨大な安芸市の伝統野菜『入河内大根』。その重さに大人も子どもも苦戦しながら、畑から収穫しました。収穫した後は、大根を調理、試食をし、高知の伝統野菜を堪能する一日となりました。



平和な社会をめざす活動を進めます

関連する
SDGs の
目標



私たちは、平和の実現をめざす活動を進めます。次の世代に戦争体験を継承するなど、平和な社会の実現に積極的に貢献します。

平和活動

こうち生協の理念「健康と子どもたちの未来のために」の中には、「平和なくして生協なし」二度と過ちを繰り返さず、家族が健康で平和な生活をおくることができるように、という願いが込められています。こうち生協では創立以来、平和について考え、学習するさまざまな取り組みを継続しています。

■ 平和への思いを折り鶴に

高知県内の各団体による平和の為の企画「ピースウェイブ」にこうち生協も参加しています。7月に開催される平和七夕まつりには、高知空襲の被害が一番ひどかったといわれる高知市京町・新京橋のアーケードなどに高知空襲で亡くなった方たちへの鎮魂と平和への願いを込めて折り鶴の吹き流しを飾ります。2023年度も多くの組合員さんから折り鶴が集まりました。



■ ピースカンパの呼びかけ

こうち生協では毎年平和の活動を支えるピースカンパを呼び掛けています。これをもとに様々な取り組みが進められています。中でも2023年度は4年振りに「沖縄戦跡・基地めぐりの旅」に、組合員親子1組が参加。かつて沖縄の住民を巻き込んだ地上戦の歴史と、米軍専用施設の70%が集中する沖縄の現状を学びました。

住民、日本兵、米兵を合わせて35,000人余りの遺骨が納められている「魂魄の塔」に手向けられた折り鶴。▶



data

□2023年度募金額／417,700円

■ ウクライナ緊急募金への取り組み

長期化するロシアによるウクライナ侵攻に加え、イスラエルとパレスチナの紛争が激化しています。こうち生協では緊急募金に取り組み、日本ユニセフ協会を通して、紛争地域の子どもたちと家族の命を守る為の物資提供や心身のケアを行う緊急・復興支援活動に役立てられます。

data

□2023年度募金額／ユニセフウクライナ募金 1,799,744円

ユニセフガザ人道危機緊急募金 640,086円



多様な人々が共生できる 社会づくりを推進します



地域活動を通じ、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現をめざします。

多様な人材が働く元気な組織に

組合員さんのお役にたち、職員が元気に働き続けられるような組織風土づくりを進めています。

お互いの仕事から学び合える研修や学習を通じて次世代の育成を強化しています。また、やりがいを持って働き続けられる環境づくりのひとつとして専任職員や正規職員への登用制度を実施しています。

■安全防衛運転の取り組み

安全防衛運転推進のためにトレーナーを各支所に配置し、「安全運転トレーナー会議」を毎月開催することで、各支所の「ヒヤリハット」事例を共有し、安全防衛運転に繋げる仕組みを構築しています。また新人研修では、自動車教習所での安全運転講習や、内部指導員による実地訓練を実施しています。



■障がいのある方の働く場づくり

こうち生協の特例子会社(株)ハートフルコープこうちでは、障がいのある方の雇用を積極的に進めています。



data □障がい者雇用人数 8 人（2024 年 3 月末時点）

■職員のチャレンジ精神を応援

定時職員から専任職員へ、専任職員から正規職員への登用を実施。職員の成長と働きがいを促し、活力のある職場づくりを進めています。

data

□2023 年登用実績
正規職員登用／6 人
専任職員登用／5 人



■定年後も経験とスキルを活かせる環境を

60 歳定年（再雇用）を迎える職員が、最長 65 歳まで働けるように定年後再雇用制度を設けています。

data

□2023 年再雇用実績 11 人



持続可能な社会づくりをめざします

関連する
SDGs の
目標



持続可能な生産と消費のために、つくる責任つかう責任を考えて行動し、商品と暮らしのあり方を見直していきます。



エシカル消費の普及

全国の組合員の声を活かして日本生協連が開発し、全国の生協に供給しているコープ商品は、よりよい社会に向けて「地域」「環境」「社会」「人々」に配慮した消費行動＝エシカル消費に対応した商品づくりに取り組んでいます。

■コープのエシカル消費4つの視点

1 豊かな地域を作り出せたら

生産者とのつながりや国産原料の使用拡大を通じて、日本の農畜水産業を応援。

主要な原材料に国産素材を使用している商品に付けるマーク



2 地球の環境を守り続けることができたなら

急速に悪化する地球環境を保持するため、環境配慮商品の開発と普及に努めています。

人と自然にとって、より良い未来を
推進する方法で栽培されたことを意
味するマーク



ra.org/ja



3 公正な社会の仕組みが作り出せたら

商品を通じて社会インフラの改善や社会的公正の実現を目指します。

国際フェアトレード基準に基づいて
認証を受けた商品につけられた
認証マーク。



4 人々の「生きる」を支えることができれば

困難とたたかう人を支援し、生きる人々全てを応援します。

コープ化粧品1点の利用につき1円を、認定NPO法人J. POSH（日本乳がんピンクリボン運動）に寄付しています。

9月～10月のピンクリボン
運動に合わせて寄付

協賛：コープ化粧品



■「コープサステナブルシリーズ」登場

コープ商品では、環境や社会に配慮した主原料を使用したエシカル対象商品に、共通のロゴマークを付けてシリーズ化しました。こうち生協ではこうした商品の普及を通じて持続可能な経済の実現に取り組んでいます。



■組合員参加のイベントを企画

11月にコープの店舗で「エシカルクイズラリー」を開催。来店者に店内に設置したエシカル消費に関するクイズにチャレンジしていただく事で、エシカル消費について学ぶ機会となりました。

クイズラリーに挑戦する来店者▶



data

□エシカルクイズラリー参加者数 280人

12 つくる責任
つかう責任



商品を通じた生産者とのつながり

こうち生協の産直は生産者と消費者がつながる事によって安全・安心な商品を組合員さんに届けること、持続可能な農業と地域に貢献することをめざしています。

■地場産品を普及し、地元の経済循環に貢献

●地場産品カタログ

高知県内各地の地場産品を集めたカタログ「とさのゆさん箱」を発行し、県内の企業・生産者さんと、組合員さんを繋ぐ活動に取り組んでいます。



●お店での地産地消

店内に産直コーナーを設置し、高知県産の農産物を販売促進しています。

また商品POPに生産者のコメントや顔写真を掲載するなどして県内産の商品を紹介し、高知県内の生産者を応援しています。



伝統野菜
入河内大根の販売▶

12 つくる責任
つかう責任



しまんと地栗植樹プロジェクトに参加

地元の取引先業者である(株)四万十ドラマさんが取り組む「しまんと地栗プロジェクト」にこうち生協も参加。このプロジェクトは休耕田に栗を植樹することで、地場産業の発展に貢献しようというものです。前年に引き続き、2024年3月にも四万十市の畑に栗の苗木を20本植樹し、以降、収穫可能となるまでの期間、栗の木の手入れをしつつ、地域の生産者との交流を深めていきます。



▲植樹の様子



2023年度環境レポート

■こうち生協 環境方針

～理念～

こうち生活協同組合（以下、こうち生協）は、「健康と子どもたちの未来のために」を基本理念とし、人間らしい豊かなくらしの創造、よりよい環境と平和をめざします。

～環境方針～

こうち生協は消費者が主体的に参加する組織であり、自らが食品・家庭用品等の供給、及び共済などの事業を行っていることを踏まえて、生協の活動が環境に与える影響を考慮します。環境に与える影響が大きな項目については、目標を設定し、定期的に見直すことにより継続的な改善を図ります。

1. くらしの見直しをすすめ、環境に優しい行動を広げます。
 - ・環境に配慮した商品の利用を広げます
 - ・環境に配慮したくらしを学び、実践します。
2. 事業活動による環境影響を改善します。
 - ・省エネや業務の効率改善、設備更新により、電気、ガス、水、車両燃料等の使用量を削減します。
 - ・適正な発注、在庫管理により、食品の廃棄ロスを削減します。
 - ・環境負荷を軽減する地産地消や環境影響に配慮した商品の取り扱いを増やします。
 - ・全国生協地球温室効果ガス総量削減長期計画に参加します。
3. 行政や地域の生産者、市民団体と協力・連携して環境に優しい取り組みを実施、支援します。
4. こうち生協や組合員さんの環境の取り組みを、生協内外へお知らせします。
5. 食品リサイクル法、容器包装リサイクル法をはじめとする環境関連法令、条例等を順守します。

この環境方針をこうち生協で働く職員に周知し、内外に公開するとともに、環境活動レポートなどで情報を公開します。

こうち生活協同組合 理事長

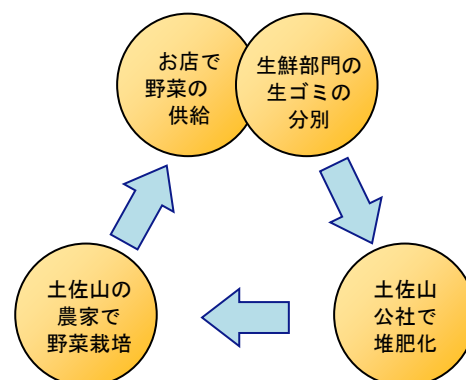
佐竹 一夫

(2005 年 10 月 25 日制定

2022 年 3 月 16 日第 12 版改訂)

■食品廃棄物の削減

店舗では、生鮮の加工くずを堆肥にリサイクルするための収集作業に取り組んでいます。加工中に出る野菜くずや魚のあら等や賞味期限を過ぎて廃棄となる食品は「土佐山開発公社」が製造する堆肥の原料の一部となっています。出来上がった堆肥は、土佐山地区での農産物の栽培時に使用され、収穫された産直野菜をこうち生協の店舗で販売しています。こうした循環型農業の実現を応援しています。



■食品リサイクル

食品廃棄物の発生量	124.0	トン
食品循環資源の(両店舗の生ゴミリサイクル)再利用の実施量	56.0	トン
食品廃棄物等の廃棄物としての処分の実施量(店・センターの廃棄商品)	68.0	トン

■食品リサイクル法への対応状況

法で要求される基準実施率(2007年度の実施率+毎年2%)	64.2	%
当年度のこうち生協での再生利用等実施率	61.8	%

■容器包装などの回収・リサイクル

①店舗

店頭でペットボトル、牛乳パック、トレー、アルミ缶を回収し、リサイクルを行っています。また、ペットボトルのキャップを回収し、回収収益から医療支援や障がい者支援、子ども達への環境教育等の社会貢献活動を行う団体に提供しています。



②共同購入

- 商品カタログ → 再生紙に再生しています。
- 商品注文書 → 主にトイレットペーパーとティッシュに再生しています。
- 牛乳パック → 主にトイレットペーパーとティッシュに再生しています。
- 保冷箱内袋 → 固形燃料に再生しています。
- 卵パック → ペットボトルのキャップに再生しています。

■容器包装等の回収データ

回収品目		回収量	単位
容器包装等の回収	紙パック(アルミ不使用)	13,229	kg
	食品トレー(発泡スチロール)	1,014	kg
	アルミ缶	6,800	kg
	PETボトル	19,108	kg
	卵パック	3,633	kg
宅配商品カタログの回収		1,808,440	kg
宅配商品を入れる内袋の回収		12,663	kg

プラスチック削減の取り組み

店舗で使用する食品トレーの一部でリサイクルトレーを用いています。店舗では使用済みトレーの回収も行っていて、「トレーto トレー®」の資源循環に取り組んでいます。また、プラスチック削減を目的に、2023 年度より店舗で無償配布するスプーンを木製に変更しました。



■エネルギー問題

再生可能エネルギーの取り組み

2012 年 6 月に、「こうち生協のエネルギー政策と原子力発電に関する基本的な考え方」として以下の 5 つの項目にまとめ公表しました。

- ① 原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換が必要であると考えます。
- ② 福島原発の事故の原因と責任について、国が国民に明らかにすることが必要と考えます。
- ③ 再生可能なエネルギー利用の促進が必要と考えます。
- ④ 事業活動において、今以上に省エネルギー化を進めていくことが必要と考えます。
- ⑤ エネルギー消費がより少ない暮らしについて一人一人が考え行動していくことが必要と考えます。

2003 年 5 月から、太陽光を利用した市民共同発電所「太陽くん」がコープよしだの屋根で稼働しています。これは県内外の市民有志が共同出資し、こうち生協が屋根を提供しているものです。発電された電気は生協が買取りコープよしだで使用しています。

2014 年 8 月末に商品センター、2015 年 7 月から中央支所、9 月から須崎支所の屋根に太陽光発電設備を設置し、発電を開始しました。

発電容量:573,532kwh



事業での省エネ

本部事務所でのクールビス、店舗・商品センター・リサイクル棟の屋根の断熱塗装、省エネ機器・LED照明の導入を実施し、電気消費の節約を進めています。また、商品センターではアンモニアを冷媒とする冷凍冷蔵設備を導入することにより、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。



▲節電を呼び掛ける POP



▲省エネタイプのショーケースを導入

■事業所での電気使用状況

	単位	2022年度	2023年度	前年比
共同購入	kwh	411,448	378,627	92.0%
店舗	kwh	1,980,959	1,924,630	97.2%
商品センター	kwh	1,181,025	1,202,735	101.8%
本部	kwh	70,828	62,158	87.8%
全体	kwh	3,644,260	3,568,150	97.9%

■車両について(生協で使用している車両の台数)

自生協で所有またはリースしている配送用トラック	ディーゼル車	104	台
	ガソリン車	8	
	LPG 車	0	
	合計	112	
自生協で所有またはリースしている営業車	ガソリン車	50	台
	ガソリンハイブリッド車	3	
	合計	53	
委託業者が宅配事業(共同購入・個配)で使用している車両 (トラックのみ)	ディーゼル車	22	台
	ディーゼルハイブリッド車	10	
	合計	32	

■車両の環境対策で実施していること

共同購入・個配の混合などでの 配送効率向上による走行距離の短縮	○
配達曜日・時間変更による コース変更による走行距離の短縮	○
地図システム等の活用による コース最適化による配送効率の向上・走行距離の削減	—
より低公害(NOx,PM)車両の導入	—
より低燃費(燃料購入価格、CO2 排出量)車両の導入	○
→低燃費車の具体的な車両の種類	低燃費車
エコドライブの取組み(具体的に:急発進の抑制による)	○
デジタコ・車載機などのエコドライブ支援機器の利用	—
組合員拡大業務のためのトラック使用の削減 (例:乗用車使用、トラック相乗り等)	○

組織の概況について

■名称:こうち生活協同組合 ■代表理事 理事長:佐竹 一夫

■創立:1985 年 11 月 18 日

■事業所一覧

事業所名		所在地	のべ床面積
本部事務所		高知市薊野中町 16-8	601 m ²
共同購入 配送支所	中央支所	高知市南河ノ瀬町 156	2,015 m ²
	東支所	高知市大津乙 916-1	952 m ²
	安田支所	安芸郡安田町安田 3114-3	611 m ²
	須崎支所	須崎市桐間東 46	779 m ²
	四万十支所	四万十市具同 240-1	1128 m ²
	南国支所	南国市篠原 1784-1	872 m ²
店舗	コープよしだ	高知市吉田町 6-6	1,778 m ²
	コープかもべ	高知市鴨部 2 丁目 4-43	2,339 m ²
商品センター		南国市三和琴平 1-1743-12	4,417 m ²

■主な事業内容

消費生活協同組合法に基づいた生活協同組合で、協同互助の精神に基づき、組合員の生活の文化的経済的改善向上をはかることを目的としています。

事業種目	主な事業品目
供給事業	農産、水産、畜産、日配品、加工食品、菓子、パン、卵、冷凍食品、日用雑貨、衣料品、配食サービス、その他
受託共済事業	CO・OP 共済《たすけあい》《あいぶらす》、終身共済、火災共済等、コープ学生総合共済
サービス事業	各種チケット、住宅新築・改築、布団クリーニング、エアコンクリーニング、ギフト、書籍、葬祭事業、引越、その他
その他	提携サービス等

■事業概況

組合員数	105,026人
(内訳) 共同購入	(75,304人)
店 舗	(29,722人)
事業高(供給高)	117億7,569万円
(内訳) 共同購入	(96億4,764万円)
店 舗	(20億57万円)
サービス	(1億2,746万円)
出資金	45億6,416万円

※1 万円未満は切り捨て ※2023 年度(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)集計

編集方針

この報告書は、こうち生協が取り組んでいる社会的責任・社会的役割に関する活動を報告するものです。この中では、国連が 2015 年に採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」と関わりのある事業や活動の事例にアイコンを掲載しています。

対象期間

2023 年度の事業・活動を報告しています。



C S Rレポート

2 0 2 4

こうち生活協同組合

〒781-0013 高知県高知市薊野中町 16-8

TEL : 088-826-5211 FAX : 088-826-5252



<https://www.kochicoop.or.jp/>

こうち生協

